



# スペシャル オリンピック 2016新潟

SPECIAL OLYMPICS NIPPON NATIONAL WINTER GAMES NIIGATA 2016

2016年第6回スペシャルオリンピックス  
日本冬季ナショナルゲーム

～新潟がめざすもの～

「ささえあう笑顔 ひろがる  
勇氣 感動を新潟から」  
をスローガンに、知的障がいのある人となない人が、ともに楽しみ作り上げることがめざす大会です。  
全力で競技に臨む選手を応援いただくことで、知的障がい個性の一つであると理解するきっかけになります。その個性を尊重することで南魚沼市が共生社会への一歩を踏み出すことができると考えています。

## 2016/2/13(土)・14(日)開催 会場/五日町スキー場



スペシャルオリンピックス2016新潟  
南魚沼事務局長  
谷口博文さん(小千谷市在住)

2005年長野での世界大会以前からスペシャルオリンピックスに関わって18年。最大の魅力はひとりひとりにあった「できる環境・条件」を満たしてあげれば、ゆっくりでも確実に技術が進歩し、笑顔豊かに自立し社会参加していく姿を目の当たりにできることです。障害があるからできない、ダメということではなくハンディキャップがあるにも関わらず、彼らが自信を持って生き生きと生きている姿は何よりも嬉しく、親御さんたちの誇り・自慢でもあるのです。

参加するアスリートは、既定のプログラムによるトレーニングを経てこの大会に参加しています。予選も決勝も関係なく、どのレースにも100%の力を注ぎ、全力で臨む姿に何か感じるものがあると思います。南魚沼では最初で最後の機会だと思われる貴重な大会を、ぜひ間近でご覧下さい。この経験を元に、知的障害を持つ人も地域の中で共生していけるような社会が広がることを願っています。



地元協力隊「大巻おもてなし隊」  
代表 高野政利さん(四十日在住)

27都道府県から600人以上の選手、関係者のみなさん、ご家族や応援団を含めると3,000人近くが地元に来てくださるのに、おもてなしをしないわけにはいかないと、2015年8月に地元有志で「大巻おもてなし隊」を設立しました。大巻地区の30人で活動していますが、地元企業のみなさまから絶大なご協力をいただき、雪国のあったかいおもてなしで、いい思い出を持ち帰ってもらえたらと張り切っています。会場に足を運んでくださった全ての方にあつあつの豚汁と甘酒をふるまうので、ぜひ応援に来てください。

### 【大巻おもてなし隊】

13日(土)14日(日)10:30～14:00ころまで五日町スキー場下、雪国スポーツ館裏手の2箇所で、あったかい豚汁、甘酒を2,000食分ふるまいます。また両日とも午前午後餅つきをし、つきたてのお餅を振舞う予定。お楽しみに。



クロカン競技 放送ボランティア  
桐生靖子さん(六日町在住)

以前、五日町スキー場で行われた冬季国体クロスカントリー競技の放送に携わったのを始め、歩くスキーフェスティバルの初回からずっと放送を担当してきました。国体の時は、NHKのアナウンサーから研修を受け本番に臨んだり、オリンピック選手の名前をコールしたりと、30年ぐらいくロカンに関わる中でいろいろな思い出がありますが、何より、年齢を問わず、選手たちの真摯な態度、本気の戦い、レースに臨む姿勢に胸が熱くなってきました。特に小さなお子さんの頑張りにには毎回感動します。放送係は選手の間近にいるので、その臨場感は格別です。

スペシャルオリンピックスを見るのはもちろん、地元にいながらスノーシューも最近はじめて知ったくらい。それでも、全国からせっかく来ていただくのですから、通り一遍のおもてなしでない雪国のあったかいおもてなしで「来てよかった」と言ってもらえるように頑張ります。ここでの経験を活かして、各選手が次のステージに向けて大きく飛躍していかれたらと願っています。

トキめけ  
キラめけ  
力いっばい  
心いっばい  
ささえあう笑顔  
ひろがる勇氣  
感動を  
新潟から



DALボランティア主任  
岡村啓志さん(田中町在住)

東日本大震災でのボランティアの経験があった私は、今回は先輩の誘いもあり参加を決めました。スペシャルオリンピックスは正直に取り組んでいればアスリート全員が決勝に進め、最後まで競技をやり終えたひとりひとりの検討を講じて、全員が表彰台にあがれると聞き、その理念に感銘をうけました。地元DALの主任ということで、イレギュラーな出来事にちゃんと対応できるか不安な部分もありますが、二日間全力で競技するアスリートたちを精一杯後押しし、通常のオリンピックとは違う感動をアスリートのみならずと味わえたらと楽しみにしています。またこの経験を通じて自分自身も成長できたと感じています。

### 【DAL(ダル)とは?】

DAL (delegation assistan liaison)は宿泊会場到着から閉会式終了まで、各選手団(競技ごと)と寝食を共にし、全てのサポート業務を行うボランティアです。通常のオリンピックと同じで、大会中アスリートたちは家族との接触は一切できません。そのため、急に体調を崩したり、慣れない地で普段は見られないような行動をしたりと、予期せぬ事態が起こる可能性もあります。競技時間の変更や弁当の手配まで、どんな事態が起きても柔軟に対応し、宿泊から競技まで全てそばについてサポートしていくという、選手団にとって一番身近なボランティアがDALなのです。今回は地元50人がDALとして各選手団をサポートします。

アルペン競技競技委員長  
五日町スキー場理事長  
田中利彦さん(写真左)



4年に1回の<世界大会に向けた日本大会>という大きな大会がこの地元で見られるというのは、めったにない非常に貴重な機会です。2015年冬にプレ大会を開いたのですが、競技ルールも普通の大会と違うので勝手がわからず、戸惑う点もありましたが、その反省も踏まえて勉強を重ねてきました。その大会で私が感じたのは、知的障害と言っても、どのクラスも見ごたえがあり、特に上級クラスなどは健康者の大会と変わらず、どのアスリートも素晴らしい滑りで驚きました。先入観も一瞬で吹き飛びました。アスリートとして人前でアピールしたり、他県のアスリートと交流する機会も多くはないと思いますので、サポートできればと関係者一同張り切っています。来年オーストリアで開かれる世界大会の予選です。非常にレベルの高い戦いが期待できますので、ぜひ間近で迫力のあるレースを観戦、応援してください。

五日町スキー場勤務 アルペン競技役員  
羽吹弘之さん(写真右)

2014年に雪上競技の会場に決まると聞き、大変驚いたことを覚えています。現在の五日町スキー場を活かして会場レイアウトを検討して準備してきました。誰もが予想していなかった小雪ですが、開催を前提に全力で準備をしています。今年はスペシャルオリンピックス開催を受けて、五日町スキー場の歴史始まって以来、はじめてスノーボードの滑走を全面解禁しました。スノーボード教室を開くなど、今までにない新しい風も吹いています。スペシャルオリンピックスは世界大会に繋がる大きな大会で、ミスは許されないというプレッシャーもありますが、全国のみなさんに、「五日町スキー場」を知っていただくいいチャンス。知名度を上げられるよう頑張ります!!